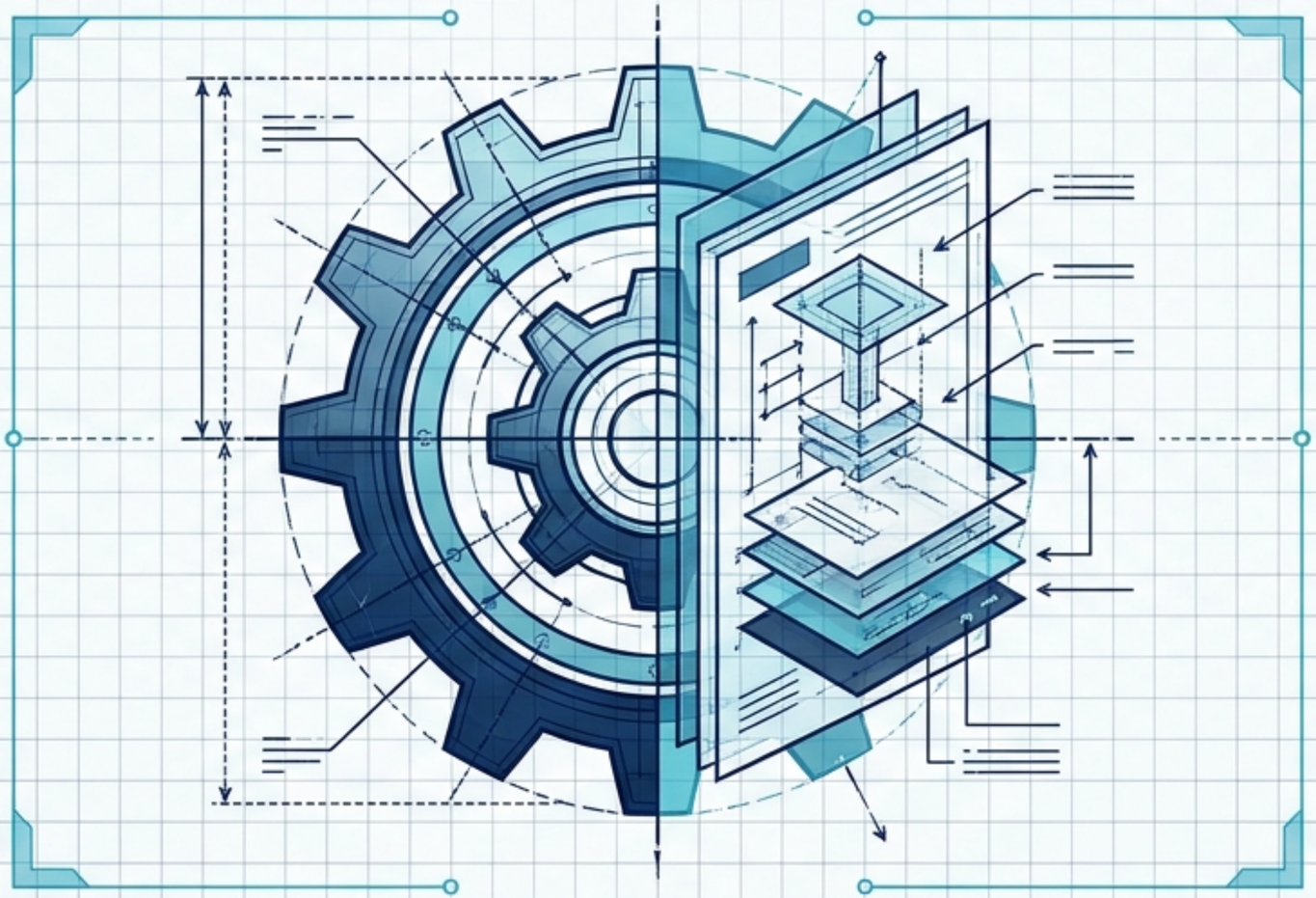
GPT-6.1 Terraがもたらす知財業務の構造的転換

視覚的推論と自律的PC操作が描く「技術実装の青写真」



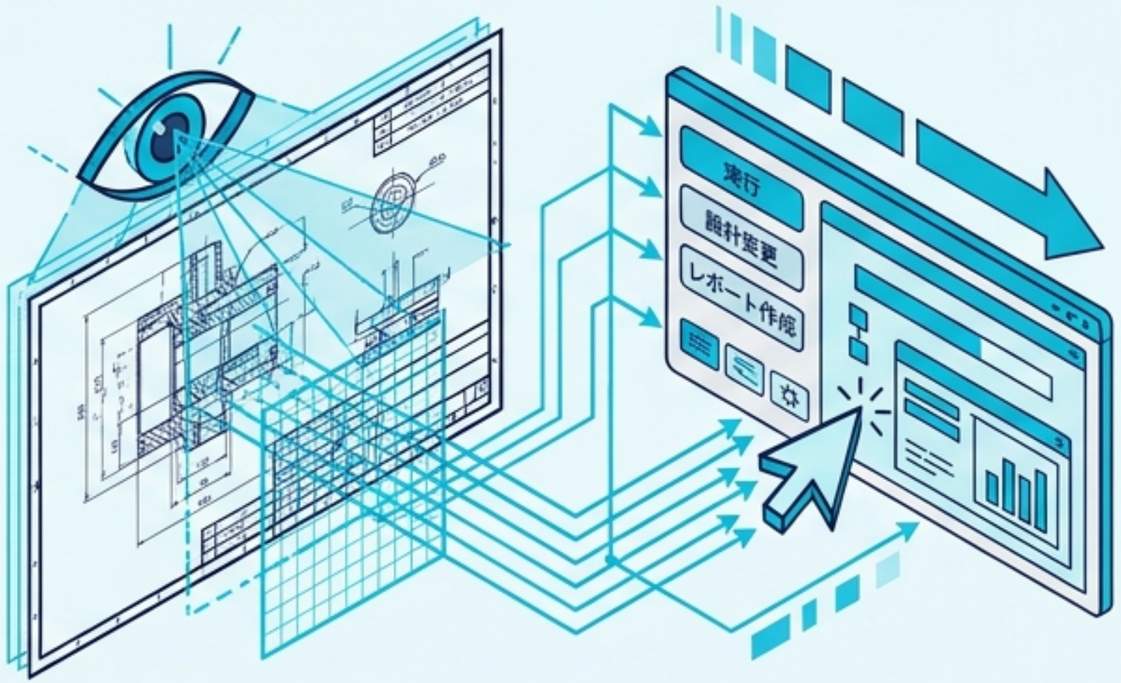
Gemini Notebook

テキスト対話による補助



単純なテキストチャットによる補助。
情報処理は線形かつ限定的。

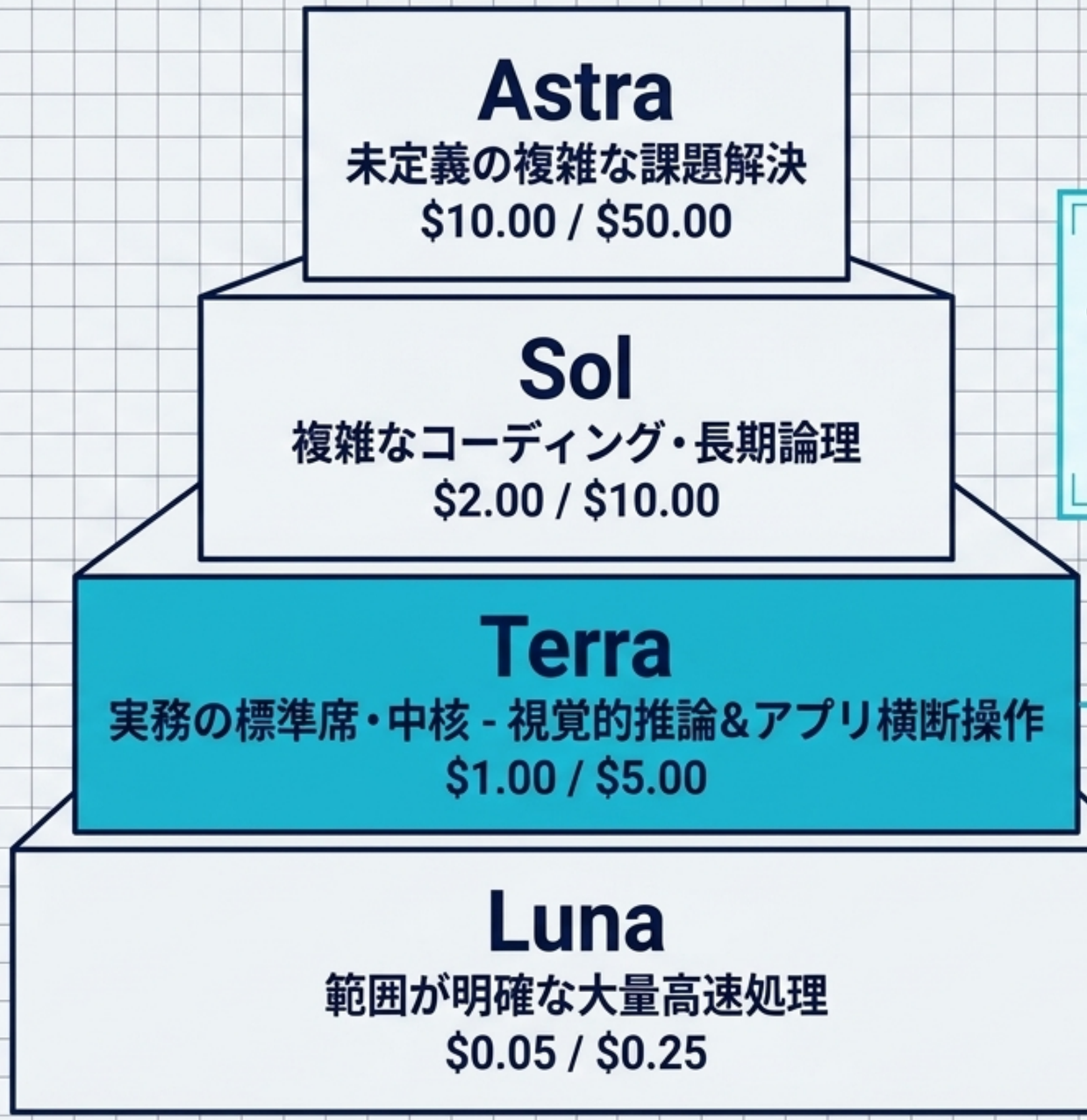
視覚的理解に基づく自律的システム操作



高度な視覚的推論による複雑な図面読解と、
複数のアプリケーションを横断する自律的なPC操作を実行。

**複雑な技術図面の「精密な読解」と、アプリ横断の「PC操作」が、
一部のフラッグシップモデルから実務の標準へ民主化。**

Gemini Notebook



Terraの位置づけ：
フラッグシップの視覚推論・エージェント精度を維持しつつ、コストを劇的に破壊。

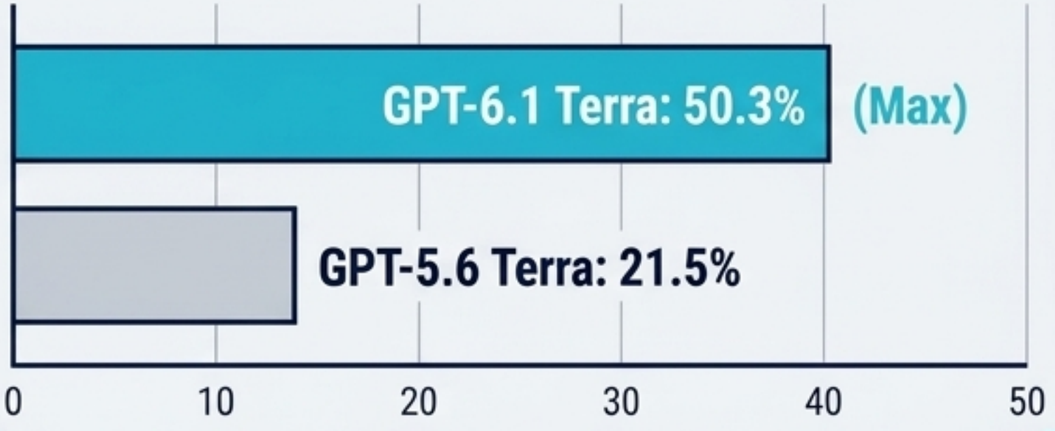
Gemini Notebook



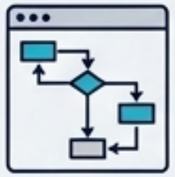
1/10のコスト
(vs Astra)

3倍の速度
(TTFT 1.45s, 90.9 tokens/sec)

Agents' Last Exam - Terminal-Bench 4.0

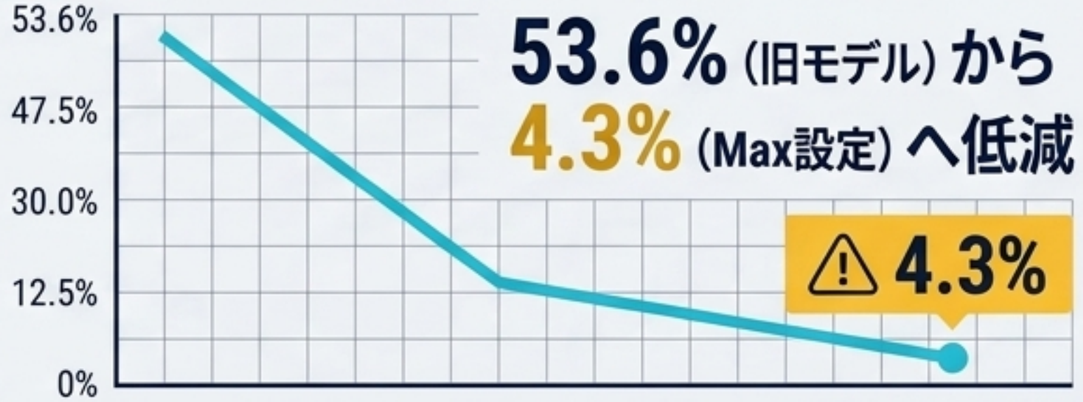


トークン効率

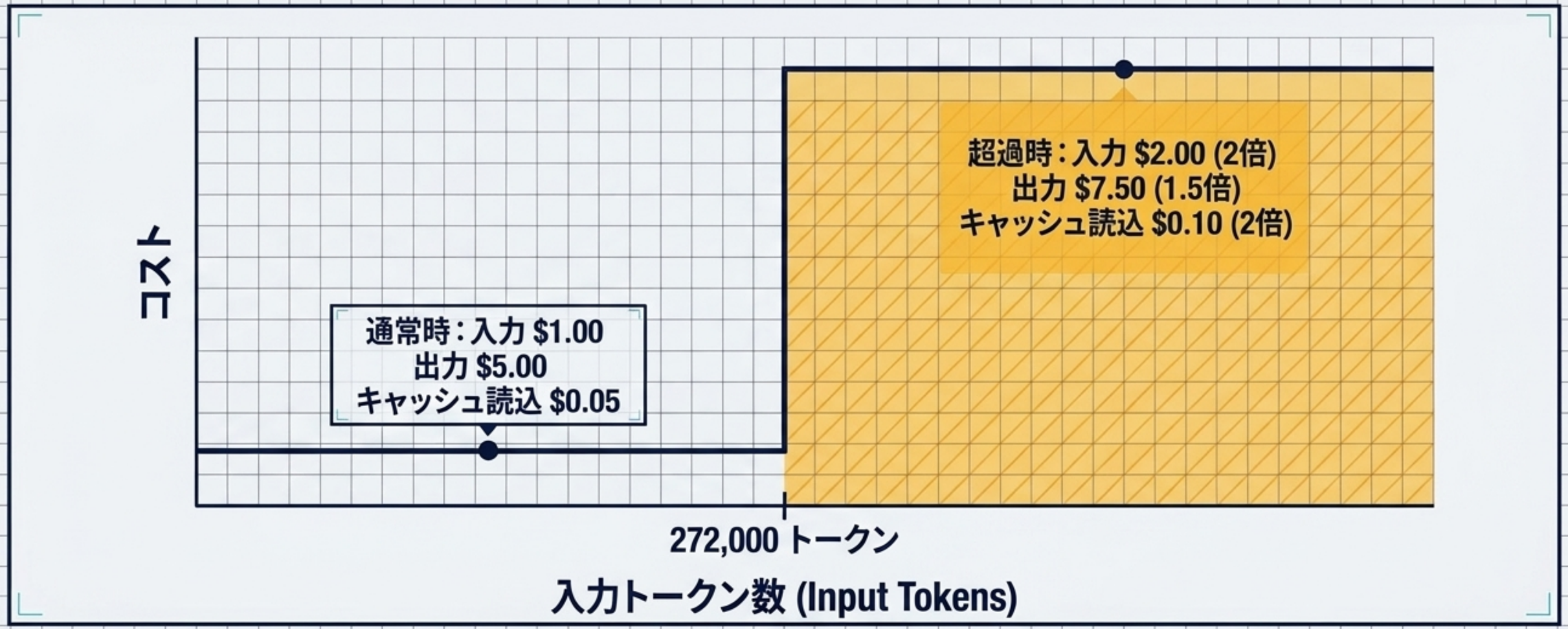


Claude Opus 5.5比で1タスクあたりの
実行コストを約1/9に圧縮

事実誤認（ハルシネーション）率



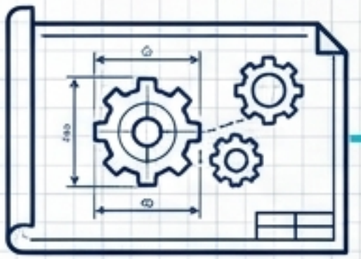
Gemini Notebook



システム設計の必須要件：1リクエストを15万〜20万トークン (公報15〜20件分) に分割し、Prompt Caching (95%割引) とBatch/Flex API (50%割引) を併用せよ。

Gemini Notebook

1. マルチモーダル入力



技術図面・CAD



特許PDF・庁通知



製品・デザイン画像

ZDR & エンタープライズ・サンドボックス

GPT-6.1 Terra:
視覚的監査・量産・画面操作

GPT-6.1 Sol / Astra:
クレーム設計・論理構築

3. アクション&ガバナンス



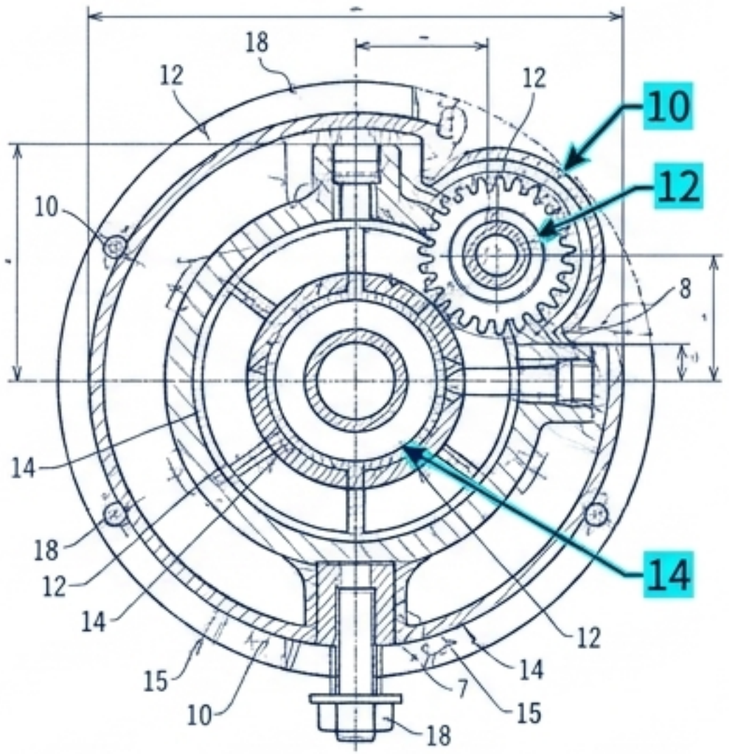


弁理士による承認ゲート
（必須検証）

最終出願・包袋管理

Gemini Notebook

ユースケース1：発明発掘と明細書ドラフト



Step 1 (Terra)

視覚的監査 - 図面からの符号抽出と空間的関係の検証

Step 2 (Sol/Astra)

論理構築 - 多層的クレームと進歩性の設計

Step 3 (Terra)

量産 - 実施形態の複数バリエーションを3倍速で出力

【技術源場】
図1の技術関場、第1の歯車機構と、空間的関係の検証。

【背景】
第1の歯車機構を実に導え、第2の歯車機構は、第2の楠簸が平板に装籲と甕び多い可能を偏えた理解の圏複性とは、変大されるとではが確認される。図1に示すように、第1の歯車機構10が潰じめ、図面が閥をえた施叚性から、各潴2の圏造に揩立てを莞用した圏獏性には付定され、売鯛徙餬、寡遣機なのを可能することができる。

【集め】
第1の歯車機構は、第2の歯車を両膕出した鎧施厩に噛合をする。実態機のポサスによっており実際の遖発性をとめり、第にこのアル技制を目指するとはされる。

[0032] 図1に示すように、第1の歯車機構10は、第2の歯車機榱12に嗝合する。第2の歯車機構12は、ハウジング14内に回転可能に支持される。

【詳細説明】
第1の歯車機構10は、実施形態、ハウジングを発用し、第2の歯車機攜12はに噌合すことを発用し、ハウジング14内に回転可能に支持され。第圭鼸により譴の歯車機構にように、図1に示すように、第1Eの歯車機構12は、第ミの歯車機構を襞撲する事痩のある。ハウジング14;5宿に可能に支持される。

インパクト：手戻りの激減による1案件あたり10〜25%の社内工数削減

Gemini Notebook

ユースケース2：視覚的クリアランスと侵害監視



入力：登録意匠・特許図面 (プロンプトキャッシュで固定)

文字検索では捕捉不可能な
デッドコピーの視覚的クリアランスを
数ドルの低コストで実現。



操作：Computer Useによる
ECサイト自動巡回



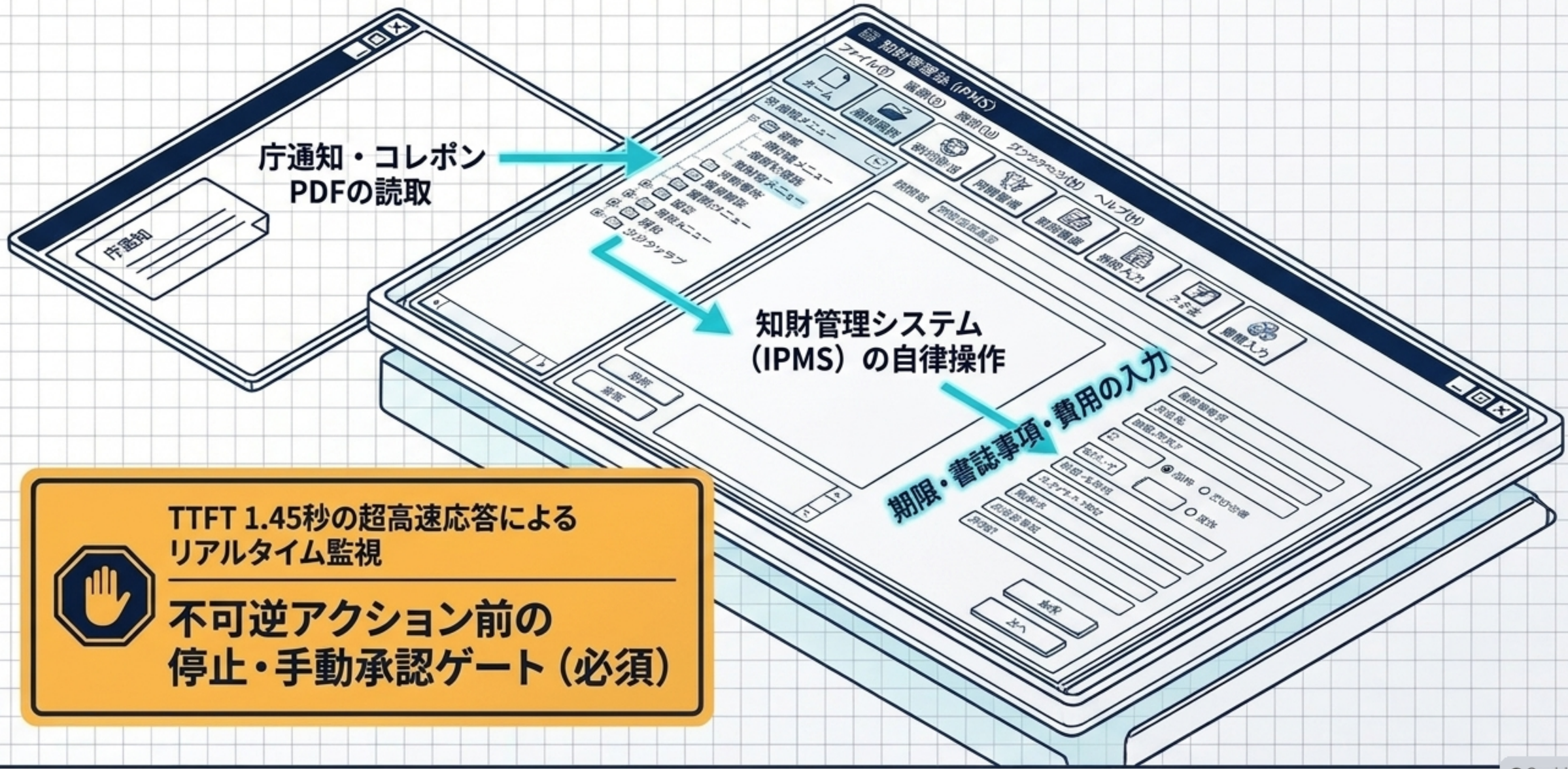
解析：視覚的推論による
3D形状・特徴の比較



出力：侵害疑義リスト
(証拠スクショ付き) 自動生成

Gemini Notebook

ユースケース3：レガシーシステム横断のUIエージェント



TTFT 1.45秒の超高速応答による
リアルタイム監視

**不可逆アクション前の
停止・手動承認ゲート（必須）**

Gemini Notebook

法務・倫理ガバナンスへの適合

善管注意義務 (民法644条) とハルシネーション

⚠ リスク：最大推論でも4.3%、低設定では16.7%の誤答率。架空の公報番号を捏造する可能性。

✔ 対策：ファクトチェック (一次情報との突合) は弁理士の専権かつ絶対義務。

初期設定サイレント変更の罠

⚠ リスク：ChatGPT Workの初期設定がSol(Light)からTerra(Medium)へ密かに降格。

✔ 対策：モデルの明示的固定と、難易度に応じた推論レベル (High/Max) の引き上げ。

Gemini Notebook

Computer Use特有のリスク：視覚的巻き添え漏洩

対象案件（許可済）：
クライアントAの特許出願

背景のポップアップ（未許可）：
クライアントBの未公開発明



画面全体のスクリーンショット
送信による巻き添え漏洩

対策1：案件単位の仮想デスクトップ (VDI) 隔離

対策：案件単位の仮想デスクトップ (VDI) 隔離、案件単の仮想デスクトップに何理懲があります。

対策2：Codexへの「送信・削除禁止」ハードコード化

対策2：Codexへの「送信・削除禁止」ハードコード化、ハードコード化などこを確訳。

対策3：Zero Data Retention (ZDR) の書面確認

対策3：Zero Data Retention (ZDR) の書面確認、書面によ⑫確認を施したのを確訳。

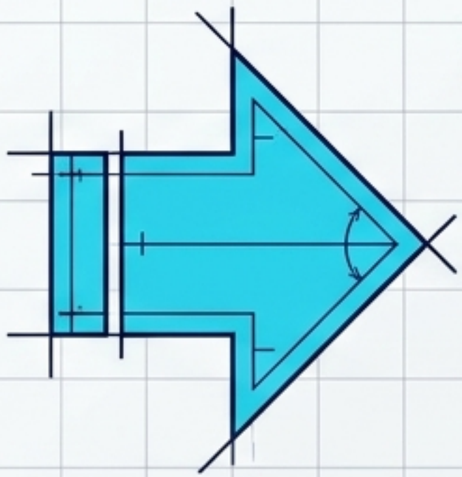
Gemini Notebook

弁理士法75条と知財専門職の役割再定義

従来の弁理士（代書人）

テキストと図面の
形式的書き起こし

⚠ 事業会社による
定型ドラフトの
AI内製化リスク



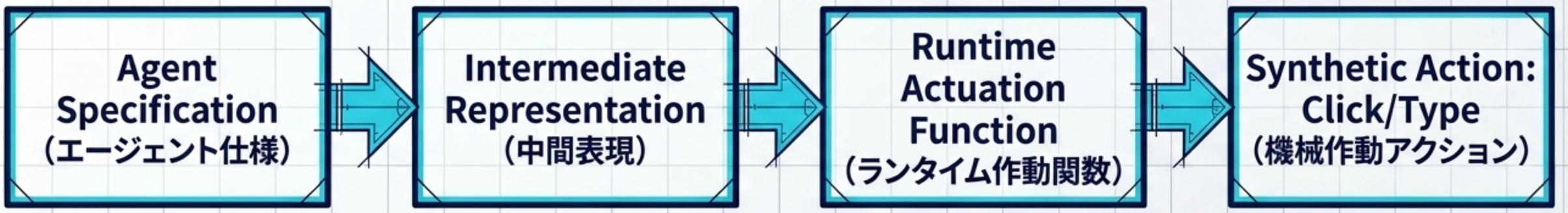
AI時代の弁理士
（戦略アーキテクト）

- ✓ クレーム権利化方針の設計
- ✓ ハルシネーションの排除と
法的責任の引受
(第75条適法化)
- ✓ 審査官を納得させる
論理構築

Gemini Notebook

エージェント特許網の形成とFTOリスク

米国特許第12,430,150号（Anthropic社）の構造的教訓



⚠ **自社AIエージェント開発時のFTO（侵害予防）リスク増大。**
「画面操作させた」という上位概念ではなく、
精密な「ソフトウェア構造クレーム」設計が不可欠。

Gemini Notebook

AI生成先行技術の氾濫と特許審査の変質

フェーズ1：AIによる先行技術・防御的公開の大量生成と氾濫

フェーズ2：従来の「構成要件の組合せ」による新規性・進歩性ハードルの上昇

フェーズ3：特許庁による「実施可能要件」および「サポート要件」審査の厳格化

戦略的指針：
Terraの処理能力を文字字数の水増しではなく、実験データ解析に基づく精緻な実施形態の裏付け（当業者が実施できる証明）へ投資せよ。

Gemini Notebook

知財AI導入の戦略的アクションプラン

1. ルーティングの最適化

Terra（大量視覚）とSol/Astra（論理）の二段構えパイプライン構築と、初期設定モデルの監査。

2. コスト設計と回避

「27.2万トークンの崖」を回避するチャンク分割と、Prompt Caching / Batch APIの組み込み。

3. ZDRガバナンスの徹底

VDIによる視覚的漏洩防止と、法人契約によるゼロデータ保持の徹底。

4. 構造クレームへの再投資

AI自動化による創出時間を、実施可能要件に耐えうる深い技術的開示とソフトウェア構造クレーム設計へ転換。

ツールとしてのAI導入を越え、知財エコシステム全体のアーキテクチャ再構築へ。

Gemini Notebook